

第38回 山口大学人文学異文化交流研究施設講演会

『故郷への亡命 — パウル・クレー晩年の創作と その芸術的／政治的意義』

総合芸術専門学校「バウハウス」（ドイツ）で教鞭を執り、ナチスに「退廃芸術家」として烙印を押された画家パウル・クレー。その後、生まれ育ったスイスへ「亡命」を強いられた。パウル・クレーの生涯について、専門家と共に読み解いていく。

講師：パウル・クレー・センター研究員 柿沼万里江

プロフィール：上智大学で哲学、学習院大学とチューリヒ大学の大学院で美術史を専攻。2016年より、パウル・クレー・センター美術史専門研究員。専門は近現代美術史、特にパウル・クレー研究。とりわけ作品の由来、履歴の調査研究に従事。

パウル・クレーに関するドイツ語での論著・解説多数。日本語の近著：柿沼万里江編、若林恵・松鶴功記訳『日々はひとつの響き ヴァルザー＝クレー詩画集』平凡社、2018年など。

日時：12月2日（木）

13:00～14:20

会場：大学会館会議室（2階）

連絡先：emde@yamaguchi-u.ac.jp 083-933-5287（エムデ研究室）



詳細はインターネットにて、「山口大学人文学部異文化交流研究施設」と検索してください。新型コロナウイルス感染防止のため発熱と体調が優れない方はご遠慮をお願いいたします。当日は検温、消毒、席の距離確保など安全対策を行います。入場無料、事前の申し込みも不要、講演は日本語で行われます。自動車は正門付近の駐車場を利用可能、警備員に講演会参加の旨をお伝え下さい。

挿入絵：パウル・クレー《リストから抹消》1933年 パウル・クレー・センター、ベルン、リヴィア・クレー寄贈
@ Zentrum Paul Klee, Bern, Bildarchiv